発行　令和６年３月

研究レポート　No. 1151　　岩手県農業研究センター

りんどう「いわて中秋のあい」における モザイク病の発生特徴と防除対策

【概要】

りんどう品種「**いわて中秋のあい**」の着蕾後の葉に発生する**退緑斑紋症状**は、**キュウリモザイクウイルス**（**ＣＭＶ**）による**モザイク病**の一症状です。モザイク病の多発要因は、媒介虫（**有翅アブラムシ**）に対する**生育期前半**（**５～６月**）の**防除圧**の低下と考えられます。

１　退緑斑紋症状の発生特徴（図１）

(1) 発生品種：いわて中秋のあい（いわて LB-5 号、６号）

(2) 発生場所：モザイク病による奇形葉が多発する圃場では、斑紋の発生頻度が高く、雑草地が隣接している場合が多くみられます。

(3) 診断：本症状はＣＭＶによるモザイク病の一症状と考えられます。

２　モザイク病の多発要因（図２、表）

(1) 生育期前半での媒介虫の発生：ＣＭＶの媒介虫（有翅アブラムシ）は生育期前半（５～６月）から多く飛来しています。

(2) 媒介虫に対する防除圧の低下：５～６月の害虫防除は、以前はアブラムシ類にも効果の高い殺虫剤が使用されていましたが、近年は本虫に効果の低い他系統剤が使用されています。

３　防除対策

退緑斑紋症状を含めたモザイク病の発生が多い地域では、ウイルス病対策として有翅アブラムシを対象とした生育期前半の防除を実施します。

図１　いわて LB-5 号の上位葉に発生した退緑斑紋症状
撮影：10 月上旬

【試験データ等】

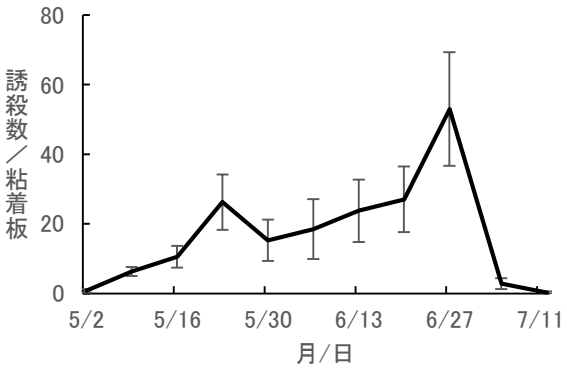

図２　リンドウ圃場での５～６月における有翅アブラムシの飛来状況（Ｒ５、場内水田転換畑（殺虫剤無散布））

※ＣＭＶの媒介虫（有翅アブラムシ）は７月以降に多く飛来するとされてきたが、近年は生育期前半（５月中旬～６月下旬）から多く飛来しています。

表　生育期前半における殺虫剤の使用実績
（農業普及技術課調べ）

年	時期		県南		県中			県北		
			O	I	M	T	N	H	M	N
H23	5月	上	○		○	○	○	◎	○	
		中	○	○	◎		○	○		
		下		○	○	○	○	○		○
	6月	上	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
		中	○		○	◎	○	○	○	○
		下	○				◎	◎	◎	◎
	実施回数		5	3	5	4	6	6	4	3
R5	5月	上					○	○		
		中		○	○			◎		○
		下				○		○	◎	
	6月	1週					◎			
		2週		◎	◎	◎	◎			
		3週	◎							◎
		4週	◎		◎	○		○		
	実施回数		2	2	3	3	3	4	1	2

アブラムシ類に対する効果適用　◎:優れる　○:有効

※近年における５～６月の害虫防除では、ＣＭＶ媒介虫（アブラムシ類）に効果の高い殺虫剤の使用頻度が低くなっています。

【令和５年度成果】りんどう「いわて中秋のあい」におけるモザイク病の発生特徴と防除対策（R5-指-32）

担当　園芸技術研究部　花き研究室　　Tel. 0197-68-4418　Fax. 0197-71-1083